筑波大学と嘉納治五郎：クーベルタンと嘉納（2018年1月22日）

和田 浩一（フェリス女学院大学）

1．二人の略歴

■ 嘉納治五郎 1860-1938

1882　弘文館・講道館・嘉納塾
1893　東京高師校長
1909　IOC委員
1920　東京高師校長退任
1922　貴族院議員・講道館文化会
1928　灘中学校開校

■ ピエール・ド・クーベルタン 1863-1937

1883　パブリック・スクール視察
1894　近代オリンピックの創設
1905『体育』1912『知育』1915『徳育』
1917　オリンピック学院
1925　IOC会長辞任・万国教育連盟創設
1927　スポーツ教育学国際事務局

2．嘉納とクーベルタンとの出会い

3．二人の思想の交差点

3-1．功利主義と実用主義

嘉：E・フェノロサ、H・スペンサー
ク：W・ジェームス

3-2．教育制度の比較研究

嘉：計13回の外遊
ク：1888『イギリスの教育』*、1890『大西洋の彼方の大学』、1901『公教育ノート』

3-3．Herbert Spencer. *Education: Intellectual, Moral, and Physical,* 1860.

嘉．本来身体と道徳と智力と此の三つのものが並び進んでいってこそ人間は堅実になるのである（1917）。／1888　講道館（-現在）、嘉納塾（-1919）、弘文館（-1889）
ク．1901『公教育ノート』、1905/1912/1915『20世紀の青年教育』三部作*

* 筑波大図書館所蔵

3-4．体育・スポーツの奨励

1）学生スポーツの組織化

嘉：1895 運動会、1901 長距離走、1905 水泳実習、1908 柔道 or 剣道必修
ク：1888 学生スポーツ競技会、身体運動普及委員会、1889 仏スポーツ競技連盟

2）スポーツの大衆化

嘉．国民全体に運動をさせようと言う事については、誰でもできるという事が一つの条件でなければならぬ。……第二には費用のかからない、設備がいらないという事である。第三は男女年齢の区別なく、なるべく人によって好き嫌いのないというもので、しかも面白くて熱中するという事のないものがよろしい（1917）。
ク．1）素早く学習できること、2）お金がほとんどかからないこと、3）実践をうながす強い動機があること、4）獲得された知識の維持が容易なこと（1910）。／Tous les sports pour tous (1919)

3）スポーツの社会化

嘉．（柔道を）社会における万般の事に応用すると、社会生活の方法となる（1931）。

ク．デブルイヤールは身体の領域にとどめるものではなく、生活のすべてに適用できるものである（1907）。

3-5．他国の理解と世界平和

嘉．真に善隣の道を尽くしてこそ、始めてその結果反射して我が国の大利益となるべし（1902）。／世界の永遠の平和は、彼を東洋化し、我を西洋化する努力に依って始めて成立する……（1922）。

嘉．1) The highest good to all will be realised when an intimate under-standing of each other's differences and peculiarities has been created. 2) ... mutual understanding which is the foundation of a close union, lasting friendship, and the peace and happiness of the whole world.(1910)

ク．他人・他国への無知は人々に憎しみを抱かせ、誤解を積み重ねさせます。さらには、様々な出来事を、戦争という野蛮な進路に情け容赦なく向かわせてしまいます。しかし、このような無知は、オリンピックで若者たちが出会うことによって徐々に消えていくでしょう。お互いに関わり合いながら生きているということを、若者たちは認識するようになるのです（1894）。

ク．スタジアムに現れる健全な民主主義、賢明かつ平和を愛する国際主義は、名誉と無私への崇拝をその場で支えることでしょう。こうした崇拝の念に助けられて、競技スポーツは筋肉を鍛えるという務めだけでなく、道徳心の改善や社会平和として行動することができるでしょう（1894）。

3-6．自他共栄と相互敬愛

嘉．（高師校長離職後）欧米に行き、戦後の経済事情や、思想の変遷等を目撃することを得、ようやく自ら確信する案が出来た……。その案は、社会生活の存続と発展との原理に基づいて道徳を説くので、その条件とか原理とかいうものはいかなるものであるかというに、それは、互いに助け合い、互いに譲り合い、我と他とが共々に栄えるということであります（1925）。

ク．相互の接触の機会を増やすことによって、相互の認識を容易にし、……相互敬愛の感情と慣習の普及のみが道徳教育を活気づける……相互敬愛は決して規則にはなり得ないと同様に、教理問答のかたちに煮詰めたり、制裁で強制したりすることもできないであろう（1915）。

参考文献

1．和田浩一「オリンピック・ムーブメントと世界平和：ピエール・ド・クーベルタンと嘉納治五郎の教育思想を中心に」、新井博・榊原浩晃編著『スポーツの歴史と文化』道和書院、2012年、pp. 125-140.

2．和田浩一「嘉納治五郎から見たピエール・ド・クーベルタンのオリンピズム」、金香男編『アジアの相互理解のために』創土社、2014年、pp. 167-189.

3．和田浩一「21世紀に生きるピエール・ド・クーベルタンのオリンピズム：日本の過去と未来の視点から」、藤井雅人ほか編著『体育・スポーツ・武術の歴史に見る「中央」と「周縁」：国家・地方・国際交流』道和書院、2015年、pp. 224-241.